

茨城県において

高病原性鳥インフルエンザ 疑似患畜確認 今シーズン国内72例目！！

【農場概要】

場所：茨城県かすみがうら市(県内4例目)

飼養状況：約4800羽(ほろほろ鳥等)

疫学関連農場：岩手県(1農場)、宮城県(1農場)、熊本県(1農場)

※発生農場から移動した家きん(合計約500羽)も疑似患畜として殺処分

【経緯】

2/1 死亡羽数増加の通報を受け、立入検査を実施、簡易検査で陽性判明

2/2 遺伝子検査で疑似患畜であることを確認

発生状況(2/2現在)家きん:25道県72事例 野鳥:26道県178事例

～留鳥を含む野鳥(カラス等)にご注意を！～



今シーズンは、全国的に野鳥での感染が広がっており、昨シーズンでは北海道、東北地方のみで感染が確認されたカラスについても、北海道、宮城県、岡山県、福岡県、埼玉県、宮崎県、埼玉県、青森県、山形県、新潟県、群馬県、滋賀県で確認されており全国で警戒が必要です。

今シーズンの発生農場の疫学調査において、一部で農場の敷地内及びその近隣において、死亡カラスから高病原性鳥インフルエンザウイルスが検出されており、一部のウインドレス鶏舎の屋根裏にカラスと思われる野鳥の侵入した形跡が確認されております。

○カラス対策について

●誘因している原因への対策

家きんへの飼料の餌こぼれや、鶏糞に含まれる破卵はカラスを誘因する原因となります。餌こぼれ防止やこまめな清掃、堆肥置き場への防鳥ネット設置、鶏糞運搬トラックへのシートの設置が有効です。

●侵入経路への対策

鶏舎への防鳥ネットの設置(破損部の点検および補修、モニター部や屋根裏など普段目が届かない場所についても点検を!)、また農場内にテグスを張りカラスが農場内を飛びにくい環境を作ることも有効です。テグスを張る際は間隔を1m未満で太めの物が効果的です。